一般社団法人日本医療薬学会
2022年度第6回定例理事会 議事録

一．開催日時： 2022年12月27日（火） 13時00分 ～ 16時10分

二．開催場所： ハイブリッド開催（事務局会議室＋Zoomを利用したウェブ会議）

三．出席者

会 頭： 山本 康次郎
理 事： 富岡 佳久
監 事： 奥田 真弘

以下の出席者は、Zoomを利用したウェブシステムにより参加した。

副会頭： 石井 伊都子、寺田 智祐、百瀬 泰行
理 事： 池田 龍二、石澤 啓介、伊藤 清美、齋藤 秀之、佐藤 淳子、佐野 俊治、豊見 敦、中村 敏明、花輪 剛久、濱浦 健司、宮﨑 長一郎、村木 優一、矢野 育子
監 事： 望月 眞弓、安原 眞人
顧 問： 武田 泰生

陪席者

事務局： 星 隆弘、姫嶋 直子、針生 裕子

欠席者

理 事： 関根 祐子、田﨑 嘉一
顧 問： 山本 信夫、五十嵐 邦彦、和田 一夫
年会長： 三浦 昌朋（第33回年会）

四．議長： 山本 康次郎

五．会議の成立

定刻において、議長より開会が宣言され、本理事会は理事 16 名の出席があり、定款第38条に定める定足数を満たしており、適法に成立している旨が報告された。

六．議事の経過の概要及びその結果

1．2022年度第5回定例理事会議事録の確認

議長より、本年11月1日に開催された2022年度第5回定例理事会の議事録を基に議事内容が確認され、修正等がある場合には本理事会終了時までに指摘するよう要請があった。

2．協議事項

(1) 2022年度各専門薬剤師認定制度における認定審査結果

1) 2022年度医療薬学専門薬剤師制度の新規認定審査結果

花輪理事より、医療薬学専門薬剤師（新規・正規）、同（新規・暫定）、同（暫定認定から正規認定への移行）及び研修施設（新規・第二期）に係る医療薬学専門薬剤師認定委員会での審議結果に係る説明があった。

1)-1 医療薬学専門薬剤師（新規・正規）の認定審査

医療薬学専門薬剤師（新規・正規）認定申請について、2022 年度専門薬剤師認定試験合格者 18 名、第 6 回薬剤師生涯学習達成度確認試験合格者 15 名、第 5 回以前の生涯学習達成度確認試験に合格している 2 名より臨床実績等の提出があり、医療薬学専門薬剤師認定委員会で審査を実施した結果、全 35 名が認定要件を充足していると判定したことが説明された。協議した結果、了承された。

1)-2　医療薬学専門薬剤師（新規・暫定）の認定審査

2022 年度専門薬剤師認定試験及び第 6 回薬剤師生涯学習達成度確認試験の合否結果に基づき、合格者 18 名が暫定認定の要件を充足していると判定したことが説明された。協議した結果、了承された。

1)-3　医療薬学専門薬剤師（暫定認定から正規認定への移行）の認定審査

医療薬学専門薬剤師（暫定認定から正規認定への移行）認定申請に 35 名より申請があり、医療薬学専門薬剤師認定委員会で提出された臨床実績等の審査を実施した結果、34 名を合格、1 名を不合格と判定したことが説明された。協議した結果、了承された。

1)-4　医療薬学専門薬剤師研修施設（新規・第二期）の認定審査

医療薬学専門薬剤師研修施設（新規・第二期）の認定申請に 24 施設より申請があり、医療薬学専門薬剤師認定委員会で審査を実施した結果、全 24 施設（基幹施設 18 施設、連携施設 6 施設）が認定要件を充足していると判定したことが説明された。協議した結果、了承された。

2）2022 年度がん専門薬剤師制度の新規認定審査結果

池田理事より、がん専門薬剤師（新規）及び研修施設（新規・第二期）に係るがん専門薬剤師認定委員会での審議結果に係る説明があった。

2)-1　がん専門薬剤師（新規）の認定審査

がん専門薬剤師（新規）認定申請について、がん専門薬剤師認定試験合格者 65 名より症例サマリの提出があり、がん専門薬剤師認定委員会で審査を実施した結果、51 名を合格、14 名を不合格と判定したことが説明された。また、旧制度下における申請者については症例サマリ等の書面審査が完了しており、今回のがん専門薬剤師認定試験合否結果に基づき 15 名を合格と判定したことが説明された。協議した結果、了承された。

2)-2　がん専門薬剤師研修施設（新規・第二期）の認定審査

がん専門薬剤師研修施設（新規・第二期）の認定申請に 12 施設より申請があり、がん専門薬剤師認定委員会で審査を実施した結果、全 12 施設（基幹施設 9 施設、連携施設 3 施設）が認定要件を充足していると判定したことが説明された。協議した結果、了承された。

3）2022年度薬物療法専門薬剤師制度の新規、更新の各認定審査結果

寺田副会頭より、薬物療法専門薬剤師（新規）、研修施設（新規・第二期）、2023年3月31日をもって認定期間が満了する同専門薬剤師に係る薬物療法専門薬剤師認定委員会での審議結果に係る説明があった。

3)-1　薬物療法専門薬剤師（新規）の認定審査

薬物療法専門薬剤師（新規）認定申請について、専門薬剤師認定試験もしくは薬剤師生涯学習達成度確認試験合格者29名のうち28名より薬剤管理指導の実績(50症例）の提出があり、薬物療法専門薬剤師認定委員会で審査を実施した結果、9名を合格、13名を不合格、6名は薬剤管理指導の実績（50症例）の再審査を実施したうえで合否を判断することが説明された。協議した結果、了承された。

3)-2　薬物療法専門薬剤師（更新）の認定審査

薬物療法専門薬剤師の更新認定申請に12名、更新保留申請に1名より申請があり、薬物療法専門薬剤師認定委員会で審査を実施した結果、8名を合格、4名を不合格と判定し、1名の更新保留が認められると判定したことが説明された。協議した結果、了承された。

3)-3　薬物療法専門薬剤師研修施設（新規・第二期）の認定審査

薬物療法専門薬剤師研修施設（新規・第二期）の認定申請に11施設より申請があり、薬物療法専門薬剤師認定委員会で審査を実施した結果、全11施設（基幹施設11施設）が認定要件を充足していると判定したことが説明された。協議した結果、了承された。

4）2022年度地域薬学ケア専門薬剤師制度の新規認定審査結果

豊見理事より、地域薬学ケア専門薬剤師（新規）及び研修施設（新規・連携施設）に係る地域薬学ケア薬剤師認定委員会での審議結果に係る説明があった。

4)-1　地域薬学ケア専門薬剤師（新規）の暫定認定審査

地域薬学ケア専門薬剤師（新規）暫定認定申請に32名より申請があり、地域薬学ケア専門薬剤師認定委員会で書類審査を実施した結果、全32名が認定要件を充足していると判定したことが説明された。協議した結果、了承された。

4)-2　地域薬学ケア専門薬剤師研修施設（新規・連携施設）の認定審査

地域薬学ケア専門薬剤師研修施設（新規・連携施設）の認定申請に33施設より申請があり、地域薬学ケア専門薬剤師認定委員会で審査を実施した結果、全33施設が認定要件を充足していると判定したことが説明された。協議した結果、了承された。

（2）薬物療法専門薬剤師、地域薬学ケア専門薬剤師認定制度規程細則の改正

1）薬物療法専門薬剤師制度

寺田副会頭より、薬物療法専門薬剤師制度において、薬学的介入を伴った症例報告に設定している内科及び外科という領域要件を撤廃すること及び条文の掲載順を変更することに係る規程細則の改正についての説明があった。協議した結果、

了承された。

2)地域薬学ケア専門薬剤師制度

豊見理事より、地域薬学ケア専門薬剤師制度において、実際の運用に即した会員資格、試験合格の免除、連携研修実施報告書の提出に関すること、連携研修の中止に伴う認定期間の延長、認定期間の満了日の延長に係る各項目を追加整備すること等に係る規程細則の改正についての説明があった。協議した結果、了承された。

(3) ゾコーバ(エンシトレルビル)の薬物相互作用マネジメントの手引きの策定

齋藤理事より、学術第4小委員会が策定したゾコーバ（エンシトレルビル）の薬物相互作用マネジメントの手引きについて説明があり、コメントや意見がある場合には1月10日（火）までに事務局に連絡することとなった。また石井副会頭より、他の薬剤に関する今後の対応については継続して検討を行うことが説明された。また、作成した手引きに係るフォロー等の必要性があることから、学術第4小委員会の活動継続について協議され、了承された。

(4) 医療薬学編集委員会委員の交代・追加委嘱、JPHCS編集委員会委員の追加委嘱

事務局より、医療薬学編集委員会委員の交代・追加委嘱について説明があり、協議した結果、了承された。また、村木理事より投稿数の増加および内容の多様化への対応を充実させることを目的としてJPHCS編集委員会委員を10名追加委嘱することについて説明があり、協議した結果、了承された。

(5) 日本がん薬剤学会からの共催依頼

議長より、第15回日本がん薬剤学会（JSOPP）学術大会における1つのセッションについて、本学会との共催運営に係る申込みを受けたことが説明された。協議した結果、了承された。

3．報告事項

(1) 理事会メール審議に係る報告

事務局より、前回の理事会から当理事会が開催されるまでの間にメールをもって理事会で審議された3件の案件の概要と審議結果が報告された。

・日本医療薬学会賞選考規程・内規の改正に係る審議
・「医療薬学」投稿規定の追加改訂
・広報用リーフレット2023年度版の策定に係る審議

上記の審議については、了承されたことが報告された。

(2) 第32回年会（高崎）の実施報告

山本年会長より、現地参加状況や視聴記録の重複等が散見され単位の取り纏めに時間を要していることが報告された。また、最終的にパシフィコ横浜のキャンセ

ル料の一部にあたる 178 万円程度の赤字となる見通しであることが報告された。

(3) 2023-2024 年度代議員選挙立候補状況報告

富岡理事より、2023-2024 年度代議員選挙立候補状況が報告された。また、今後のスケジュールについて説明があった。

(4) 医療薬学誌 11 月号の発送トラブルと会員向けの広報活動

事務局より、医療薬学誌 11 月号発送時に所管郵便局より信書に該当する内容が含まれているため「第四種郵便物」として発送できない旨の指摘を受け、急遽一般の定形外郵便物として発送したため差額分の費用が発生したことが報告された。今後の対応としては、当面の間、会員向けの原稿の掲載を見合わせること、「第三種郵便物」の認可要件や料金について確認を進めることが報告された。

(5) 次期出版図書の編纂方針

中村理事より、本学会の出版図書である「病態を理解して組み立てる薬剤師のための疾患別薬物療法（5 分冊）」の編纂方針や編纂体制等について報告があった。

(6) JPHCS の会員割引適用に関する申請および承認方法の変更

村木理事より、JPHCS の会員割引措置の新しい申請方法について説明があり、学会ホームページ上で告知を行うことが報告された。

(7) 第 87 回・88 回医療薬学公開シンポジウム開催報告

伊藤理事より、第 87 回（愛知）、第 88 回（富山）公開シンポジウムの開催報告書を基に、実施概要が報告された。

(8) 第 36 回年会の開催計画

富岡理事より、第 36 回年会（金沢）の開催計画が報告された。

(9) 第 3 回臨床研究セミナーの開催計画

矢野理事より、第 3 回臨床研究セミナーの開催計画が報告された。

(10) 日本薬系学会連合の設立に係る説明会

奥田監事より、日本薬系学会連合設立に向けた今後の進め方について報告があった。

(11) 薬剤師の資質向上等に資する研修事業のための研修資材等の作成(脳卒中)

寺田副会頭より、日本薬剤師会より依頼があった研修用の e-learning コンテンツ「脳卒中」の作成協力について、現時点での進捗状況等について報告があった。

(12) 厚労科研「国民のニーズに応える薬剤師の専門性のあり方に関する調査研究」

矢野理事より、厚労科研「国民のニーズに応える薬剤師の専門性のあり方に関する調査研究」について研究年度終了報告に係る説明及び 2023 年 2 月 23 日（祝）に開催予定の公開シンポジウムへの参加依頼があった。

(13) 薬学教育モデル･コア･カリキュラム 2024 版

奥田監事より、薬学会人材養成の在り方に関する検討会の議事内容について報告があった。

(14) 30 周年記念誌の販売状況

事務局より、30 周年記念誌の販売状況について報告があった。在庫分について、各専門薬剤師制度の認定研修施設に寄贈することなどを検討することについて説明があり、1 月 10 日（火）までに寄贈先に係る意見を事務局に連絡することになった。

(15) 後援申請への回答（2 件）

議長より、日本臨床腫瘍薬学会学術大会 JASPO2023 及び第 15 回日本がん薬剤学会学術大会の後援申請があり、後援を承諾したことが報告された。

(16) 委員会開催報告

次の各委員会の議事録を基に、各委員長より議事概要が報告された。
専門薬剤師制度運営委員会、薬物療法集中講義企画・運営小委員会、医療薬学認定委員会、薬物療法認定委員会、がん認定委員会、がん研修小委員会、がん能力向上小委員会、地域薬学ケア認定委員会、年会運営実行小委員会、代議員候補者推薦委員会、出版図書の改訂に係る打合せ、広報・出版委員会

(17) 事務連絡

事務局より、今年度の各委員会報告について 1 月 26 日（木）までの提出が依頼された。また、第 33 回年会シンポジウムの演題登録について説明があった。

(18) その他

日本学術会議による「学術の中長期研究戦略」の公募への対応として石井副会頭と佐藤理事が取り纏めた「医薬品・ワクチンに関するリテラシーの向上」の内容に係る説明があった。

以上をもって全ての議事の審議及び報告を終了したので、議長は 16 時 10 分に閉会を宣言し、解散した。